

土師器・陶器・須恵器・鉄鍔・土製品・石製品）五、綜括（立地条件をめぐる諸問題・縄文後期集落の経済基盤・縄文農耕論への新しい視角）英文抄録 引用文献目録 図版

調査団 団長 角田文衛 調査主任 渡辺 誠 調査員 片岡肇・鈴木忠司・江谷寛・亀井節夫・那須孝悌・田中正昭、その他木村・山本・小池・川端・長谷川・山岸・山下・梅咲・上羽・飯田・西田などの若い学者が協力。江坂輝弥・賀川光夫・寺島孝・中道秋治・永松・平ノ内・下村諸氏も名をつらねるなど、龐大な組織でなされたのである。

以上は地理学の側というより、わたくしのインタレストである自然堤防のごく限られた視角からの紹介であり、極めて不備な記述に過ぎないことをおわびしつつ擲筆する。

本報告書は非売品であるが、発行所に伺ったところでは若干の余部があり、京都市中京区三条高倉平安物館経理課（〒六〇四 振替京都七七七）に申込みれば 定価六〇〇〇円送料三四〇円でおわけできるとのことである。B五版三四八頁 ほかにアート写真版七十二頁 一九七五年一月三十一日舞鶴市教育委員会発行

（龍 瀬 良 明）

山崎謹哉編著 地理教育の本質と実践

本書は専修大学の山崎謹哉教授を中心に、駒沢大学の中島義一助教授が協力した著述である。ほかに小学校教育を大角留吉（日大地理卒・戸塚一少）、奥藤恭弥（千葉大卒、東大研修・習志野二中）、

阿部和夫（岩手大卒・岩谷堂高）の三先生が実践面を分担した、書名のとおり「本質と実践」のすぐれた教科書である。

五名の編著者はいずれも、その道のベテランである上、評者もよく知っているので、文章が読みやすいことと相まって、アツというまでに、全巻を読了してしまった。これなら、現場の先生はもちろん、他日現場へ出るために学部大学生が、教職課程のテキストまたは教材研究指針として使用しやすいに違いない。

本書の特色の第一は、地理教育とは何か、地理学との関係、小・中・高校での地理教育での本質と実践面はもとより、郷土学習から遠足のしかたにいたるまで、およそ地理教育の各方面を一通り、まんべんなく扱っている点である。これなら大学のテキストに好適であろう。

第二の特色は地理教育の実際のやり方を具体的に展開している点である。例えば小学校五年生、「日本の農業」を二八時間で行なう指導計画を、あるいは六年生「さばくと草原」の展開例を適切に示している。

同じ「日本の農業」は中学校ではどのように指導するか。これを日本経済の諸問題として、政経社分野で綿密に展開して見せてくれる。

高校では「オセアニアと南極大陸」の指導案では、その展開例がとくにすぐれている。

第三の特色は生徒指導の実践例を写真や地図を加えて、興味深く表現している点である。同じ傾向は山崎教授自身の撮影になる、住宅地と入組む野菜畑と芝生畑を示した都市域農業の景観写真にも見

られる。

第四の特色は新しい視聴覚教育による地理教育の部分に見られる。テレビをどのように使用するか。一週間のスケジュールを整然と表解、八ミリ、一六ミリ映画についても、かゆいところに手のとどくような親切的な記述が続く。著者たちの、あくまで地道な日常的努力の成果である。

山崎謹哉氏にはすでに一八年前、「地理教育の研究」なる著書があり、昭和三八年には「地理教育の方法」なる名著もある、この道の専門家というべきだろう。それだけに、文章や論理は枝葉に走らず、空理空論に低迷せず、度を過ごさず、適宜のテーマを、適切に要約しているので、読者は安心して参考にすることができるというものだ。

協力者の中島さんは、歴史地理学者としての長い学生生活をたて糸とし、高等学校と大学における地理教育の豊かな経験をよく糸とした、練達の士である。郷土学習と地図利用、このもつとも重要なテーマをゆきとどいた筆で書き進めている。本の装丁は仲々すてきな上、定価も手ごろである。 A5 一六八頁 昭和五〇年

一二月一〇日 古今書院 一、七〇〇円 (籠瀬良明)

会 告 (つづき)

昭和五一年度紀要 第一八号「災害の歴史地理」

の編集内容について

昭和五一年度紀要、第一八号「災害の歴史地理」は、来る四月二九日の大会当日発刊となります。総会・大会に御出席の会員には、会場受付でお渡しいたします。なお本号は、一般向売価は定

価三、〇〇〇円となります。編集内容は左記のとおりです。

○序	稲見悦治
○災害による国府の移転	木下 良
○水害発生常習地の歴史地理学的研究に関する課題	山田安彦
○岩手県における冷害と対策について	池田雅美
○多摩川の水害と万葉歌碑について	矢島仁吉
○藩政時代における海岸砂丘防災林の造成事例	立石友男
○近世九十九里浜の不漁に対する領主と漁民の行動	菊地利夫
○千拓新田における災害の歴史地理	

——三河国平七新田を例として——

○輪井の災害と沼水——宝暦以降の水論について——	村瀬正章
○長島輪中地域の水害と新田開発の歴史地理	伊藤安男
○高須輪中の水害についての考察	伊藤重信
○明治三十二年十津川水害	松原義継
○明治三十六年伊那谷集中豪雨における	籠瀬良明
○揖斐川上流の木地屋集落の崩壊過程——小津の場合——	千葉徳爾
○明治前期における家島諸島の三つの浦	田畑久夫
——その集落間の異質性を問題にして——	平岡昭利

会 務 報 告

会費の改訂について

諸物価高騰のため、現行の年額二、五〇〇円の会費では本会の運営に種々支障を生じて来ましたので、昨年春の評議員会、総会に、会費検討のための委員会を設けることを提案し、御了承を得ました。そこで、本会では、岸本実君を主査とし、大角留吉、木村東一郎、